

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
指導計画に各学年とも様々な素材体験を意識して取り入れた結果、それぞれ興味関心をもち造形活動に取り組むことができています。	素材体験の積み重ねを自分の表現活動に生かすことに加え、新しく表現を生み出す意識をもたせることにはまだ難しい部分がある。

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	造形遊びや表現活動に喜んで取り組んでいる。ハサミや糊の取り扱いに慣れていない児童がいる。	児童の思いを大切にしながら、基本の作り方や手順を一つずつ身に付けられるように丁寧に支援していく。
2年生	展覧会もあるので、さまざまな場面での造形のための道具を使いこなせるようにしていきたい。	道具や素材を使いこなせるような場面を設定し、十分な時間を確保して習熟できるようにする。
3年生	ほとんどの児童が進んで活動に取り組み、表現することができる。反面、身近な表現材料に関心をもったり、身体全体を十分に働かせて表現することが不安な児童もいる。	身近な表現材料に関心をもち、さらに発想を広げることができるように素材集めや材料体験のできるように題材を工夫する。
4年生	友達との関わりも加え自分の思いが素直に表現できるようになってきているが、まだ素材体験を通しての発想も広げたい。	素材体験を重視した題材を考慮する。また用具、機械を繰り返し扱うことから各自が自主的に用いることができるように計画する。
5年生	個々の表現活動にあわせた用具・材料の活用を進めるが、基礎・基本を十分に配慮する。	表現材料に興味をもって探し選ぶことができるように多種類の材料の経験を意図的に進める。作品や活動を通して感じたこと、考えたことを自分の言葉で表すことができるような課題設定を進める。
6年生	自分の表現活動を見通しを持ち、取り組むことができるように個人カードやワークシートを活用する。自覚が持てるようになってきてはいるが、さら自覚して発展できるように課題設定する。	表現活動につながりをもたせ、常に個々を意識させることを意図的に課題に組み入れる。

●学校全体で取り組む内容

<p>多くの素材体験を中心に個々の表現活動を広げること、つながりをもつことを考慮して、各学年の指導計画に組み入れる題材を配慮する。</p> <p>今年度は校内展覧会の計画のもと、鑑賞学習において、個々の思いを作品に添えたり、作品についての解説を行ったり、メッセージの交換。共有をしたりして言語能力、思考力の向上を常に考慮する。</p>
---